

2024年3月期 上期決算説明会 質疑応答要旨
(2023年11月7日開催)

オルガノ株式会社

本資料については、当社判断で簡潔にまとめたものとなりますこと、予めご了承下さい。

Q 電子産業・半導体市場の見通しについて教えてほしい。

A 汎用メモリを中心とした市況低迷が続いているが、DRAMやロジック半導体、パワー半導体等では需給がタイトになりつつあり、また長期的には需要拡大が見込まれる。当社としてはそれら機会を捉えるため、エンジニアリング体制の効率化、人材含めたりソース強化に努めていく。

Q 国内の通期受注見通しが期初計画の950億円から1100億円に増額されているが、この増加分は新しい案件の追加によるものか。

A 原材料の長納期化に伴う案件工期の長期化が続いている中、顧客が発注を前倒しする傾向が続いている。また、国内で半導体分野の新たな投資案件が引き続きあることから増額している。

Q ソリューションが好調だが、その背景や地域別の状況などを教えてほしい。

A 当社が納入した設備に対する運転管理、保守、メンテナンス、増設、また機能材などの消耗品交換が増えている。加えて、顧客の省エネにつながるような新しいソリューションサービスも増えている。ソリューション売上は日本が占めている割合が大きい。

Q プラント事業について、コストダウンによる影響が想定以上に出て収益性改善に繋がっているとのことだが、今後も同水準の-marginが見込めるものか、または一時的なものか見解を教えてほしい。

A 半導体を中心とした電子産業分野向けがプラント事業の売上に占める割合は、今後も高く推移していくと見ている。そこで求められる高レベルの超純水を安定的に提供出来る企業は限られ顧客からも当社の価値を高く評価されている中、原材料価格の高騰懸念は引き続きあるものの、可能な限りそれらを織り込んで事業を進めていくことで同水準の-marginを今後も見込めると考える。製薬分野などでも高度の技術が要求されるため、同様に現在と同レベルの-marginを維持できるものと見込んでいる。

Q 中国での案件進捗が遅れた背景について教えてほしい。また、今後も中国内外で同様の事象が起きるリスクや、御社の対応についても教えてほしい。

A 米国による対中国輸出規制の影響、また、年初には当地でコロナの影響が残っていたこ

とによるサプライチェーンの乱れが主な背景である。中国を含め全般的に、サプライチェーンの乱れによる原材料の長期化や価格の高騰に対しては、代替材料や調達先の多様化でその強化を図る。特に中国については、中国国内品の採用や、中国国内での製造などを考慮し対応する。

Q 中国の客先都合の工程見直しは一巡し、3Q以降は通常のビジネスが可能になっているのか。

A 中国の事業環境は3Q以降も厳しい状況が続いているが、案件進捗の遅れにより工期が集中している前期の受注残対応を進めることに注力する。

Q 足元で受注は好調、今後も既に見えている案件など繁忙状況が当面続きそうだが、それに対するキャパシティの状況はどうか。具体的な対応策、人員の増加ペース、ならびに来年からの働き方改革による影響など、全般的なキャパシティについてのご見解を教えてください。

A エンジニアリングの効率化、パートナー企業との役割分担の見直し、要員強化を考えている。エンジニアリングの効率化については、大型案件と中小型案件でそれぞれに適した体制を取り、また水処理プラントの計画や設計の一部自動化を進め、大幅な工数削減に取り組む。来年4月からの時間外労働の上限規制については、前広に建設現場を中心に効率化に取り組んでいる。コンプライアンスの問題であり必ず遵守する。

Q 電子産業分野の受注高は、一部が上期に前倒しも通期では期初計画通りか。国内は期初計画比で上振れ、海外は下振れでオフセットということか。また、来期大きな受注案件が少ないという市場感があるが見解教えてください。

A 電子産業分野の受注高はご指摘の通り。来期について、電子・一般産業と多数引合があり全てに応えることが難しい状況が続くと考えている。案件のスケジュールをよくウォッチし取り組んでいく。

Q 国内の受注見通しは、海外企業からの受注も含まれているか。

A 含まれている。

Q 台湾の受注について、上期はほぼ計画通りであったが下期に下方修正となったのは、顧客動向に変化があったのか。または下期回復の期待感が弱まったのか。

A 足下の半導体需給の緩みにより投資が後ろ倒しになっている。一方、大手半導体製造顧客の業績が回復傾向にあるとの報道もあることから、その動向を見ながら積極的に展開していく。

Q 利益率改善の要因について具体的に教えてください。

A 過去数年原材料価格の高騰が続いており案件取り組みの際にそれを織り込むが、実際のコストが想定よりも小さかったこと、また全般的な工事の効率化などが総合的に寄与したことによる。

Q グローバルの半導体市場が明確にダウンサイクル入りしているものの、受注高はそれほど大きなマイナスとはなっていない印象である。来期の受注を先食いしているようなリスクがあるのか、それとも来期は市場に倣って更なる拡大を見込んでいるのか、可能な範囲で教えてほしい。

A 全般的に顧客が発注を前倒ししている傾向があり受注を先食いしているとも言えるが、半導体分野の投資は引き続き活発であると見込んでいる。一般産業や電力分野でも新規や増設の需要を見込んでいる。

本資料における業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

以 上